

施策番号 1-2-2	施策名 地域資源を活用した観光の振興	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり			
		政策名	農業と連携した活力ある商工業と観光物産の振興			
	主管課	商工観光課	課長名	紺野 裕	内線	411
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
農業や景観、食など本町の地域資源を活かした観光による魅力づくりを行うため、本町のブランド力の戦略的な活用を図りながら、観光誘客の促進を目指します。		町外観光客	・観光客の滞在時間と日数を増大させ、観光消費の拡大を図る ・観光資源が認知され、新規観光客とリピーターを獲得する				芽室町が道内・国内・海外に発信される 交流人口の増で消費の拡大につながる
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 芽室町外からの観光入込客数	十勝総合振興局まとめ	人/年	198,800	171,600	203,900	209,000	
② 新嵐山スカイパーク利用者数	商工観光課調べ	人/年	488,100	362,389	502,900	513,000	
③							
④							
成果指標設定の考え方	①段階的に209,000人/年を目指す。②年1%増加を目標とし、30年度から34年度までの5年間につき5%増で設定						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	189,718	149,203
人工数(業務量)	1.6208	2.2427

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①愛菜屋営業日数・時間減少並びに新嵐山来場者の減 ②自然降雪の減少によるスキー場の営業日数の減及び新型コロナウイルス感染症による来場者及び宿泊客キャンセル
②2022年度の目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・新型コロナウイルス感染症の長期化によっては、特に道外やインバウンドの来場者の減少が見込まれる。 ・②にあつては、新型コロナウイルス感染症の影響により嵐山改革のターゲットを国内及び近郊に絞った事業展開が必要とされる。 ・近年の自然降雪不足により、スキー場の経営が厳しいため、新たなアクティビティの商品化が必要とされる。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	ふるさと納税特典贈呈事業 新嵐山スカイパーク運営支援事業 芽室町観光物産協会運営支援事業 発祥の地杯ゲートボール大会開催支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・ふるさと納税返礼品により、本町の地場産品を発送し食のつながりを通じた、芽室町のPR活動は効果的であり、今年度はポータルサイトを増設した結果、返礼品額改正前の実績に戻つつある。 ・新嵐山スカイパークは観光の拠点として唯一無二であり、高校生のスポーツ合宿地及びスキー場は道内、道外からの来町者呼び込んでいるが、近年の気象環境や利用者ニーズの変化により経営が厳しく、新嵐山の新たな活用計画を策定した。 ・観光物産協会は地場産品及び観光PR活動の主団体として精力的に事業展開を行っている。 ・発祥の地杯GB大会は「芽室町」が発祥の地として確固たる地位を築いているが、年々参加団体が減少しており大会継続に向けた検討が必要である。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税にあつては、返礼品減額改正に伴い各自治体の取り組みにより納税金額に差が生じる。 ・観光全体としては、団体旅行が減少し、インターネットによる観光情報の入手が容易になり、多様化する個人ニーズに合致した観光メニューの多様化が求められ、また、滞在型、体験型観光のニーズの高まりを受け、芽室町を「観光地経営」の視点に立った観光地域づくり舵取り役として、経営戦略を実施するための調整機能を備えた「芽室版DMO」が必要とされる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・新嵐山スカイパークの今後整備手法の在り方 ・ふるさと納税寄付額の減少への取り組み ・サイクルツーリズムの今後の事業展開 ・ゲートボール競技人口の減少

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税寄付額の増加の取り組みとして、ポータルサイトの増設、返礼品の見直しを積極的に行う。また、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者ニーズの変化及び需要減少した地場産品の活用を検討する。 ・新嵐山スカイパークの利用促進を図るため、令和元年度策定した活用計画を基に民間事業者との連携やスカイパーク一帯の土地の有効活用を図る。 ・道央、道東の中間に位置する十勝平原SAを活用し、観光物産協会と連携し特産品普及だけでなく、町への誘客活動(嵐山イベント、サイクルツーリズムなど)に取り組む。 ・発祥の地杯ゲートボール大会の参加団体の減少を受け、今後は若い世代が参加を目指すような競技性を重視した大会運営を構築する。
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	成果指標は策定時と比べ下がっているが、新嵐山スカイパーク利用者数などは気候等の外的要因の影響が大きいこと、また新嵐山スカイパークの活用計画の策定等、新しい取組を進めていることから、策定時と比較して前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	新嵐山スカイパーク活用計画に沿った事業推進、またサイクルツーリズムなど、継続して事業を進めてもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した 				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	新嵐山スカイパークについて、様々な新しい取組を進めていることから、策定時と比較して前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	芽室町の観光資源は嵐山であるため、新嵐山スカイパークの活用計画に基づき様々な取組を行ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した 				